

低コスト稲作技術 りん酸・加里の低成分肥料

1. 技術の概要

「りん酸・加里の低成分肥料」は窒素成分に対して、りん酸および加里の含有量を落とした低コストな肥料です。土壌分析によってりん酸や加里が十分に含まれていると診断された圃場では、低成分肥料を用いることによって肥料費を削減できます。

2. 技術導入のメリット

- ① 慣行の肥料と比較して、りん酸および加里の含有量を落としているため、**肥料の単価が抑えられています。**
- ② JA全農では平成21年～25年にかけて、全国10カ所の公立試験場において、低成分肥料の施用試験を行い、概ね、土壌の可給態りん酸(トルオーグ法)が10mg/100g以上、交換性加里が25mg/100g以上の圃場であれば、**4～5年間は低成分肥料を使用することができる**ことを明らかにしました。(※中央農研センターでもりん酸、加里減肥指針を出しています)
- ③ 上記の試験では、**低成分肥料を使用した場合の収量、品質(食味、外観品質)は慣行肥料と全く変わらない**ことが明らかにされました。



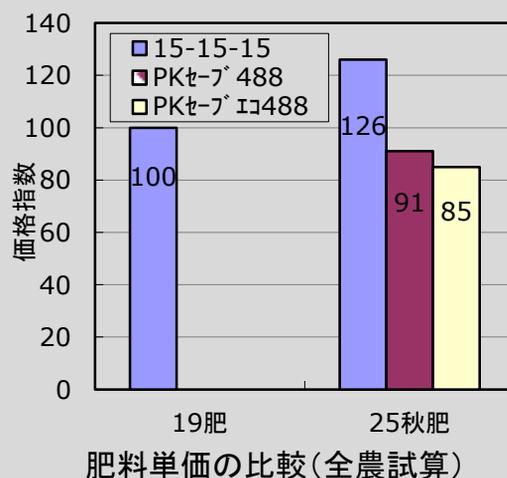
※PKセーブエコは原料に鶏ふん燃焼灰を用いてさらに低コスト化をはかった肥料です。

3. コスト削減効果

肥料コストの低減効果(グリーンレポート)

	慣行	土壌診断→低成分銘柄
土壌診断経費	未実施	3,000円
肥料の成分(N-P ₂ O ₅ -K ₂ O)(%)	14-14-14	14-10-10
施用量	400kg/ha	400kg/ha
肥料節減額(慣行比)	—	8,800円/ha
コスト削減額(慣行比)	—	5,800円/ha

土壌診断経費例(pH、リン酸、塩基、CEC、ケイ酸)、肥料施用量(便宜上、基肥のみ)および肥料節減額は全農試算



肥料単価の比較(全農試算)

4. 留意事項

- ① 土壌中のりん酸・加里の含量が十分でない場合に低成分肥料を用いた場合、生育や収量が低下する場合がありますので(とくに寒冷地)、土壌診断は必ず実施してください。
- ② 試験場試験は、食用米、わら全量還元 conditions で実施しています。
- ③ 低成分肥料を使用する場合であっても堆肥や土づくり資材の施用は通常通り行う必要があります。

お問い合わせ先



JA全農 肥料農薬部 技術対策課

TEL.03-6271-8291 FAX.0120-771639(ナナイロサク)